

○事業所名	中野区立療育センターアポロ園 児童発達支援事業			
○保護者評価実施期間	2024年12月17日 10:00 ～ 2025年01月31日 23:55			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	355	(回答者数)	95
○従業者評価実施期間	2025年1月7日 10:00 ～ 2025年01月13日 23:55			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数)	37
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携のもと、利用者の理解に努め、利用者とそのご家族のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている。	児童発達支援計画（個別支援計画）の更新面談やモニタリングシートを通じてニーズを把握し、聞き取りを行っています。具体的な支援方法についてわかりやすく説明します。保育士、児童指導員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士が連携し、お子さまの発達段階に応じた専門的支援を行っています。	個別支援計画をより良い療育に反映させるため、職員それぞれのアセスメントの能力とそれを言語化する能力について研鑽を積んでいきます。
2	利用者が安心感を持って通所していること。また、通所を楽しみにしている利用者が多いこと。事業所の職員が共感的な支援に長けていること。	専門職が多く勤務しており、常にご家族の不安に寄り添う対応を心がけています。特に、活動の目的やねらいについては丁寧でわかりやすい説明を心がけています。また、個別支援計画に沿ったアドバイスを積極的に行っています。	ご家庭によっては十分な共感的支援ができていないケースもあるため、どのご家庭にも同じ水準の支援を提供できるように職員のスキルを向上させていきます。また、より充実した家族支援を行える体制を整えていきます。
3	療育の活動等のスペースが十分に確保されている。生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、利用者の活動に合わせた空間となっている。	区立の施設として、設備は十分であると感じただけ環境を準備しています。また、職員の工夫により、療育に適した環境を整える意識を持って整備しています。	さらなる工夫や体制づくりに励みます。定期的なミーティングで改善点やアイデアを共有、協議し、実現可能な改善策については積極的に実施します。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度から事業を引き継ぎましたが、体制が整うまで個別療育等を開始することができず、遅れが生じました。そのため、利用者や訪問先に困惑を招いてしまったこと。	今年度の事業引き継ぎの際に急な退職があり、体制が整わなかったことが最大の要因です。法人間の引継ぎが十分でなかったことを真摯に反省し、信頼関係の回復を急務として取り組んでいます。	次年度以降、新たな信頼関係を元に必要な支援が届き、それが継続されるように安定した体制をつくっていきます。利用者や訪問先、また職員間のコミュニケーションを蜜にし、必要な家庭に必要な支援を届ける仕組みづくりを構築します。
2	保護者活動の支援や保護者会などの、保護者同士の交流機会が少なかった。また、きょうだい向けのイベントなど、きょうだい同士の交流の機械が設けられなかった。	年度始めに行事について十分な計画が練れなかったことが要因です。保護者同士の交流については、事業引き継ぎ後に体制が整ってから積極的に行いましたが、結果として不十分だったと考えます。	年間計画を作成し、確実に開催できるよう担当を明確にします。初めて運営するイベントについては安全管理を徹底し、リスク管理の視点を持って運営します。参加者の安全を確保し、予期せぬトラブルを未然に防ぐための対策を講じることで、スムーズな運営を目指します。
3	利用者家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会が行われていない。また、積極的な情報提供の機会等が少ない。	年度始めに家族支援プログラムや研修会等の計画を立てられなかったことが主な要因です。それに加えて、職員が日々の療育以外の業務に目を向けることが難しかったことも原因の一つと考えています。	年間計画を作成し、確実に実行できる体制を整えます。計画通りに実行することに加えて、家族に対してどのような支援が必要かという視点を持つことを職員内で意識付けしていきます。